

令和5年度 学校評価総括表

阿波市立一条小学校

- 1 学校教育目標 一人一人を生かした人間尊重の教育
 ~自他の命を大切にし、共にたくましく社会を生き抜く児童の育成~
- 2 重点目標 ○人権教育の充実 ○確かな学力の育成 ○健康・安全教育の充実
- 3 総括表

評価項目	考察（成果と課題）	評価	次年度への改善点等
人権教育・道徳教育の充実	<p>○「先生方は、いじめや差別のない学級や学校にしようとしている」「自分は、友達にやさしくできた」に対して、児童の肯定的な回答はそれぞれ9%、87%で昨年度とほぼ変わらず、「友だちと仲よく過ごすことができた」については、昨年度よりも8ポイント下がり、84%だった。これは、コロナ禍が明け、以前の距離感の近い人間関係に戻ったことにより、よい意味での仲間づくりの振り返りができるようになったからではないだろうか。</p> <p>○「先生は、一人一人の子どもの人権を大切にしながら、豊かな心を育て、いじめの防止に取り組んでいる」「先生は、地域や保護者と連携を図りながら、学年に応じた人権教育を進めている」の保護者の肯定的な回答は両方98%と高評価であった。</p> <p>○教職員の「子どもには、いじめをなくし、人権を大切にしようとする気持ちや態度が育ってきている」の肯定的な回答は75%で昨年度よりもやや増加したが、保護者からの評価と開きがある。</p> <p>○学校内外を問わず、人権問題を自分の身近な問題としてとらえ、友達や自分の周りにいる人を大切にしていこうとともに、地域に対する誇りや地域を大切にしていこうとする態度や実践力を育てていかなければならない。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とともに体験的に学ぶ人権学習の推進 ・人権教育における研修の充実 ・SWPBS（学校全体で取り組むポジティブな行動支援）の充実
授業改善及び学力の向上	<p>○「学校の授業はわかりやすい」の児童の肯定的な回答は92%で昨年度より3%の減、「毎日宿題を出すことができた」「家で宿題をする時のルール（約束）を決めて、守ることができた」児童の肯定的な回答はそれぞれ87%、86%で、昨年度とほぼ変わらなかった。「わかった」「できるようになった」という達成感や満足感を持たせる授業が行えるよう、質の高い授業の実現に向けて、授業力の向上と授業改善に向けた効果的な研修を行うとともに、家庭学習の習慣定着に向けて各家庭への啓発や連携づくりを行っていききたい。</p> <p>○「学校が力を入れている「情報教育」は、現在や将来の子どもたちにとって、とても役立つ勉強である」の保護者の肯定的な回答は95%で、情報教育に関しての保護者からの期待が窺える。対して「タブレットやホワイトボードを使って学習したり、発表したりするのは楽しくて、勉強がよくわかる」についての児童の肯定的な回答は86%であった。タブレット等の活用について、効果的に授業に生かしていない現状があるのではなかろうか。授業改善に向けて、タブレット等のICT機器の活用は必須である。授業のどの場面でもどのように機器を活用していくか、学力向上に繋がるよう研修を深めていく。</p> <p>○「家でも、学校でもたくさん読書をした」についての児童の肯定的な回答は66%だった。「先生は、『読む』『書く』『話す』を伸ばすために、読書や音読、作文、発表する学習を熱心にすすめてくれている」に対して、保護者の肯定的な回答は95%であった。国語力はすべての教科の基礎となる。読書をはじめ、聞く話す書くなどの言語活動の場面をすべての授業で効果的に取り入れていく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学力実行プランの改善と実践の充実 ・言語活動の充実や学習規律の徹底 ・ユニバーサルデザインに基づく授業づくり ・家庭学習のサポート ・SWPBS（学校全体で取り組むポジティブな行動支援）の充実

評価項目	考察（成果と課題）	評価	次年度への改善点等
体力の向上及び健康の保持増進	<p>○「私は、体育の時間や休み時間にしっかりからだを動かすことができた」「わたしは、自分の健康を守るためによくがんばっている」に対して、児童の肯定的な回答はそれぞれ87%、89%となり、昨年度よりも2～6ポイントの減少がみられた。</p> <p>○「早寝・早起き・朝ご飯ができています」については、84%で昨年度より7%向上した。</p> <p>○コロナ禍が明け、外遊びをする児童は多くなったが、進んで運動する児童とあまり運動しない児童の二極化の傾向がみられる。冬の行事である、なわとび大会については、全校を通して縦割り班活動で行っており、児童は意欲的に取り組んでいた。体育の授業の質の向上や休み時間の外遊びの奨励、校外体育的行事の積極的な参加呼びかけ、校内の体育的行事の充実など、学校内外での体力向上についての取り組みを充実させたい。</p> <p>○「わたしは、ノーメディアデーの日に、テレビを見たり、ゲームをししたりする以外のことができた」についての児童の肯定的な回答は71%で、「学校がすすめている『いきいきカード』や『ノーメディアデー』は、子どもたちの健康を育てるために役立っている」についての保護者の肯定的な回答は69%で、それぞれ昨年度より大きく下回った。「いきいきカード」や「ノーメディアデー」における取り組みについて、マンネリ化しないように期間を決めたり方法を変化させたり工夫しながら児童や保護者に啓発していく必要がある。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力向上に関する取組の啓発 ・ 望ましい基本的生活習慣の確立 ・ 健康の保持増進 ・ 食育の推進
生徒指導の充実	<p>○「先生方は、自分の頑張りを認め、ほめたり、励ましたりしてくれる」「先生は、困ったり悩んだりしたときには相談にのってくれる」について児童の肯定的な回答はそれぞれ92%、91%と昨年とほぼ変わらず、「先生方は、まちがったことをしたら、きちんと注意してくれる」については96%と、6ポイント向上した。肯定的な回答割合が高く、本校教職員が厳しくも愛情をもって、意図が明確な指導をしていることを児童が理解してくれていたのではないだろうか。</p> <p>○「わたしは、先生や友達へのあいさつがよくできている」「あいさつ、くつせいとん、チャイム着席」の3つのミッションができたについては、それぞれ86%、87%で、昨年度の肯定的な回答とほぼ変わらなかった。「学校は、あいさつをはじめ、子どもたちの日常生活指導がよくできている」について保護者からは90%以上の高い評価をいただいている。</p> <p>○あいさつは本校児童の課題である。特に朝のあいさつは、学年が上がるに従って声が小さくなっている。あいさつ運動等の取り組みを工夫したい。</p> <p>○児童が、主体的に、よりよい生活をしようとする意識をもっと高めていけるよう、学級活動や児童会活動の時間を有効に使うことも重要である。学校や学級内の生活ルール等について、児童が主体となって見直し改善していくよう促すことは方策の1つである。教員が決めたルールよりも自分たちで考えつくったルールの方が児童にとっては規範意識が高まるであろう。今後も児童のよりよい生活習慣定着に向けて、児童の主体性を高めらるよう、学校全体で支援していきとともに、各家庭とも連携・協力しながら、児童が規律ある望ましい生活ができるよう働きかけていく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ SWPBS（学校全体で取り組むポジティブな行動支援）の充実 ・ 家庭・地域・関係諸機関との連携 ・ 情報共有に努め、チームでの対応

評価項目	考察（成果と課題）	評価	次年度への改善点等
防災教育、安全教育の徹底	<p>○「わたしは、学校の行き帰りや、自転車に乗るときは交通安全のルールを守っている」は児童の肯定的な回答は95%で昨年度より3ポイントの減少だった。交通安全に関する児童の意識はやや低下気味である。本年度は校区西方に新しい県道ができ、危険箇所が増えた。継続して安全指導に取り組みたい。また、学校だけでなく、保護者に対しても、随時校区内での安全確保について子どもたちに呼びかけてもらえるよう、メール等を使って働きかける必要がある。</p> <p>○「地震や火事、不審者があらわれたときなどに、どうやって逃げたらよいか、きちんと教えてもらっている」「一条小学校は、いつもきれいで、遊びや勉強が楽しく、安全にできるところだ」に対して、児童の肯定的な回答はそれぞれ95%、91%となり、昨年度とほぼ同様の結果であった。</p> <p>○「学校は、子どもが交通ルールを守って、安全に登下校ができるよう指導をしてくれている」「子どもに何か緊急事態があったとき、すぐに学校と家庭との連絡をとることができる」「学校の施設・設備は、点検や安全への配慮がされていて、教育環境が整っている」に対して、保護者の肯定的な回答はそれぞれ95%、96%、97%となり、昨年度よりも、0～2ポイントの向上がみられた。</p> <p>○学校の安全指導・安全管理について大多数の児童や保護者の方に信頼されていると考えている。この信頼を裏切らないよう、全教職員が一丸となって児童の安全最優先で取り組んでいく。</p>	C	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織との合同訓練の実施 ・防災教育、安全教育の徹底 ・危機管理体制の徹底
教育活動の改善及び質の向上	<p>○「学校に行くのが楽しい」については児童の肯定的な回答は84%で昨年度とほぼ変わらず、「わたしは、物事がうまくいかないとき、粘り強く頑張ることができる」「自分は頑張ればできる子だと思おう」について、児童の肯定的な回答はそれぞれ71%、77%で、特に「根気強さ・粘り強さ」については昨年度から18ポイントも低下した。</p> <p>○「根気強さ・粘り強さ」「自信」を育てていくためには、児童の内面と外面、両面の働きかけが重要である。児童に小さな達成感、成就感の積み重ねさせることによって「もう少しがんばれば！」の意識を定着させていくことで、内発的な意欲を高めたい。それとともに、他者からの励ましや称賛などの外からの働きかけは、児童のやる気の大きな原動力となる。その子のやる気を引き出すために、スモールステップで課題を設定し、成功体験をこつこつと味わえるような学習計画を組み立て、支援していくことが大切だと考える。</p> <p>○「自分のことが好きだ」については、児童の肯定的な回答が91%と大きく上がっている。要因として、5月よりコロナ禍が明け、学習活動や学校生活がほぼ通常に戻り、あらゆる面での行動制限によるストレスから解放されたことが大きいのではないだろうか。</p> <p>○「学校からの『おたより』や『ホームページ』の内容は、学校のように知るために役立っている」の項目は、93%で昨年度よりは4ポイント増加した。引き続き「学校だより」「学年だより」「ホームページ」等をさらに充実させることにより、様々な行事等を通じて、本校の教育活動に対する保護者の信頼が十分得られるように努めていきたい。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価による検証改善 ・「学校だより」「学年だより」「ホームページ」等の充実